

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（1月分）

留学先大学：ナポリ東洋大学

こんにちは！まだまだだと思っていた留学生活も気づいたら残り二週間を切っていました。折り返し地点までの期間も早かったですが、その後はそれ以上に早く感じました。

今回はイタリア人のお正月の過ごし方をはじめ、生活していて日本と比較して感じたことを紹介させていただこうと思います。

【年末年始】

日本ではクリスマスが終わった途端に一気にお正月モードに入りますが、イタリアではクリスマスが終わって 1.2 週間経ってもイルミネーションなどもそのままだったのでしばらくの間はクリスマスの雰囲気が町全体に残っていました。

日本では年越しは家族とするのが一般的ですが、イタリアでは家族だけでなく友達と過ごす人も一定数いるようです。クリスマス直前に地元に戻り、年越し前にナポリに戻って来た現地の学生が多い印象でした。

年越しの瞬間は花火が打ち上がると聞いたので、年越し 20 分前に友達とトレド通りへ向かいました。昼間は大勢の人々で賑わっているショッピング通りですが、人はポツポツ見かけるくらいでほとんどいなかったのですが、その直後にその理由が分かりました。外にいるのは危険だからです…（笑）私は「花火が打ち上がる」と聞いて規模は小さくともどこかの団体が正式に行うものだと思っていたのですが、実際は至る所で一般家庭のベランダから花火が打ち上げられていました。花火はまだいいのですが、一番怖かったのは爆竹です。おそらくこれも一般家庭のベランダから飛ばされているのですが、どこから飛んでくるかわからず、しかも結構な頻度で飛んできたので怖過ぎて外に出たことを後悔しました。正直ナポリの年越しを甘く見ていました…。

また、私は見かけなかったのですが、ナポリでは年越しに古くなった家具をベランダから外に放り投げるといった伝統があるようです。数年前の年越しでその様子を目の当たりにした現地の友人に後から写真を見せてもらったのですが、粗大ゴミの山ですごいことになっていました。せっかくならその様子も見てみたかったのですが、今回は見る機会がなかったことに内心少しホッとしている部分もあります…（笑）

（写真ではイマイチ怖さが伝わらないのですが、下の方に写っているのが爆竹の煙です。）



【お風呂事情】

イタリアのバスルームには基本的にバスタブはないため、湯船には浸からずシャワーを浴びるだけというのが一般的です。日本人として“湯船にゆっくり浸かれないなんて”…と感じる人もいるかもしれませんが、私はその点に関しては特に問題ありませんでした。ただ、ひとつ問題として取り上げるなら、シャワーの温度が一定ではないということです。日本であれば、お湯の設定にしている場合、冷たいのは最初だけでそれ以降はずっと温かいお湯が出てくると思います。ですが、イタリアのシャワーはそうではなく、特に私のアパートのシャワーに関しては、お湯の設定にしている場合でも基本的に冷水でたまに1分ほどお湯が出てまたすぐに冷水に戻る…という感じです。もちろんお湯が出ている時だけシャワーを浴びるのですが、次のお湯が出てくるまで待っている間は寒くて凍え死にそうです。そしてその時間に何を考えているかということ、当たり前のようにお湯が出続ける日本のシャワーの有難みです…(笑) シャワーのこと以外でも日本にいるときは当たり前だったがためにそれがどれだけ幸せなことかということに気づけていなかった、ということに気づけました。イタリアに来てから自分が「幸せ」「心地よい」と感じられる基準が大分低くなったと思います。

【心の変化】

それと同時に人や物事に対しても寛容になったと感じています。例えば、電車の遅延です。日本にいる時は5分10分発車や到着が遅れただけで少しイライラしてしまいましたが、イタリアでは他の都市に旅行に行く際、電車の故障により1時間出発が遅れても（予定は少し変わってしまうけど目的地に行けるだけまだよかった…）と思えるようになりました。また、その時は結局代わりの電車に乗り換えるよう促されたのですが、元々指定席を予約していたものの、最初よりも座席数の少ない電車だったため座れる席がありませんでした。また、日本でいう新幹線だったため、次の停車駅までの時間が長く2時間ほど立ちっぱなしだったのですが、そのことに対してのネガティブな気持ちよりもやっと座れた時の喜びの方が大きく感じられたのは、私なりに成長できたのではないかと思います。

また、私はその時同じ電車に乗っていた周りの現地のイタリア人の反応にも少し驚きました。もしこれが日本だったらもっと電車内はピリピリしていたと思うからです。その日は平日だったのでサラリーマンらしき人も多く乗っていましたが、それほどイライラした様

子ではありませんでした。住居探しの時の経験からイタリア人は時間にルーズな人が多いと感じており（もちろんちゃんとした人もいます。）、それも理由の一つなのかもしれません。決して時間にルーズなことがいいという訳ではないですが、物事がスムーズに進まなくても…「完璧」でなくてもいいや…という雰囲気は日本ではあまり目にしないので新鮮でした。

【日本とイタリアの比較】

イタリアもそうですが、今まで行った他の国々と比較しても改めて日本のサービスは素晴らしいと感じます。そして私は日本の丁寧で完璧なサービスを日本人としてとても誇りに思っています。もちろんサービスが完璧であることはいいことではあるものの、裏を返すとそれによって苦しめられている人がいるのではないかと思います。それは、サービスが「完璧」なのが当たり前であることに慣れてしまったがために少しでも「完璧」からそれると気になってしまう「サービスを受ける側」と、「完璧」でなくてはいけないというプレッシャーを感じ過ぎており少しでもそれからそれると自分はダメな人間だと落ち込んでしまう「サービスを提供する側」の人達です。そういう意味では日本は非常に窮屈な国でもあるのではないかと感じています。

そして心に余裕がなくなり他人に対して不寛容になってしまっているように感じます。

「こうあるべきだ」と必要以上に思っているがために、そして日頃のストレスが多いがために完璧ではない他人を批判することをストレスの吐き口にしてしまっているような気がします。

また、完璧なサービスは「便利であること」とも言い換えることが出来ると思うのですが、それが必ずしもいいこととは限らないのではないかとイタリアに来て感じ始めました。例えば、買い物でいうと、イタリアにはコンビニがなく、スーパーも基本的に20時には閉まります。多少不便に感じることはありますが、慣れると普通ですし、働く人たちからすると理想的なのではないかと思います。なぜなら夜遅くまで働かないということは、早く家に帰れる分家族と過ごす時間が長くなったり、自分の好きなことをする時間が増えたり、生活リズムを崩さずに健康でいられたりするからです。もちろん仕事は大事ですが、日本人は本当はプライベートも重視したいものの実際はなかなか難しくてできないという人が少なくないのではないかと思います。それには残業が多いなど様々な理由があると思うのですが、そのなかの一つに「便利なサービス」のために働いているということが挙げられると思います。そのような人達は夜遅い時間帯や一般的には休日である土日に働かないといけません。便利であることは、サービスを受ける側からすれば喜ばしいことであるものの、その裏側には犠牲になっている人がいることを忘れてはなりません。

一方で、イタリアは少し不便なところはあるものの、基本的にイタリア人は仕事よりも自分のプライベートが一番大事で多少ミスしても小さいことは気にしないのでストレスフリーに生きているという印象です。プライベートが充実しているので心身ともに健康で大人も子どもも皆楽しそうです。

日本もイタリアもそれぞれ良い所悪い所があるのでどちらの国の方がいいとは一概には言えませんが、イタリアに来てこういう生き方、考え方もあるんだということを知れてなんだか気持ちが少し楽になりました。ただ、仕事に対しての向き合い方が日本とイタリアは対照的過ぎるので、足して2で割ったくらいが丁度良さそうだなと感じることはあります(笑)

【ナポリの景色】

留学もそろそろ終わりを迎える今更になってようやくナポリの景色を一望しました。自分が数ヶ月住んできた街を客観的に見ているような気分になり不思議な感じがしましたが、大変だったこと楽しかったこと…色々あったなぁと留学中の出来事を思い出しながらしばらく眺めていました。昼だけでなく夜景も綺麗だと聞いたので帰国前にまた行けたらいいなと思います。

